

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 24 日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24320070

研究課題名(和文) 隋唐楽府文学の総合的研究

研究課題名(英文) The combined research on the relations between music and literature in Sui-Tang period

研究代表者

長谷部 剛 (HASEBE, Tsuyoshi)

関西大学・文学部・教授

研究者番号：50308152

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,300,000円

研究成果の概要(和文)：「『旧唐書』音楽志について現代日本語訳と詳細な注釈を作成し、唐代の胡楽＝燕楽の実態の解明に取り組む」という研究目的については、研究代表者・分担者十人全員が、年三回三年連続の研究例会に参加し、『旧唐書』音楽志訳注稿の作成に取り組み、その成果を学術雑誌に連載した。『旧唐書』音楽志の解読によって「雅楽／燕楽」の関係について歴史的な位置づけを行うことができた。

また、林謙三『隋唐燕楽調研究』日本語版刊行の準備も、この三年で整い、2016年春に刊行することとなった。三年目には海外研究協力者を関西大学アジア文化研究センターに招聘し、国際シンポジウムを開催して研究結果の統括を行った。

研究成果の概要(英文)：We have a research purpose : to try to clarify the real facts of Huyue and Yanyue in Tang Dynasty through translating Jiutangshu Yinyuezhi into Japasene and append copious notes. We all had 12 meetings in these three years to research this theme and published the translation and annotations of Jiutangshu Yinyuezhi on an academic journal. We were expected to publish the research on Suitang Yanyue Yanjiu of HAYASHI Kenzo in the next year. Three forein collaborators was invited to the Center for the Study of Asian cultures,Kansai University. The international symposium was held to summarize the study of the relations between music and literature in Sui-Tang period.

研究分野：中国文学

キーワード：楽府文学 隋唐燕楽 林謙三

1. 研究開始当初の背景

詩歌は中国文学においてその中心を占める分野として伝統的に認識されてきた。現存する最も早期の作品群『詩経』がそうであるように、中国詩歌は根源的に祭祀・儀礼の場で音楽の演奏とともに歌唱されるものであり、やがて前漢の時代に宮中に御歌所「楽府」が創設されることで詩歌と音楽の両者は結合し制度化された。施設の名称であった「楽府」は、そこで扱われる歌辞・楽曲をも指すようになり、このために「楽府」について考察することは文学のみならず古代中国の祭祀・儀礼文化をも総合的に研究することを意味している。なお、本研究の標題で用いた「楽府文学」とは楽府の歌辞などの文学作品を指している。

研究代表者(長谷部剛)は、2002年度～2004年度科学研究費補助金・基盤(B)「六朝の楽府と楽府詩」(研究代表者:釜谷武志[神戸大学・文学部・教授])および2006年度～2009年度科学研究費補助金・基盤(B)「南北朝楽府の多角的研究」(研究代表者:佐藤大志[広島大学・教育学研究科(研究院)・准教授])に研究分担者として参加し、楽府および楽府文学研究に従事してきた。

「六朝の楽府と楽府詩」では、六朝期の楽府制度と楽府詩を研究する際に最も重要な文献である『宋書』楽志について現代日本語訳および詳細な注釈を作成し、東晋における楽府断絶が南朝における宮廷音楽の復興と楽府文学の再興をむかえたことを解明することができた。

続けて、「南北朝楽府の多角的研究」では『隋書』音楽志の現代日本語訳と詳細な注釈を作成し、その過程で、南朝について言えば、梁武帝による雅楽の整備とその改革の実態や、東晋以前の宮廷音楽との関連性を明らかにし、北朝について言えば、北魏から北齐・北周までの間、北朝の宮廷音楽が、『周礼』の記述に依拠して制度を整え、そこに西域系の楽曲と旧来の雅楽を織りまぜつつ、次第に整備されていったことを明らかにすることができた。この「南北朝楽府の多角的研究」の最終段階では、隋王朝が陳王朝攻略によって南朝旧来の雅楽を収めた後、北朝側の系譜と南朝側の系譜が、どのように衝突し、やがては統合されてゆくのか、その解明に着手した。そこで最も焦点化されたのが、『隋書』音楽志に記される、隋、開皇年間(581?600)始めの「七部楽」設立の問題である。「七部楽」とは国伎・清商伎・高麗伎・天竺伎・安国伎・龜茲伎・文康伎(文康伎・清商伎の二つの中華の音楽と五つの中華域外の音楽)を指し、これらは楽府において整備され主に宮中の宴会儀礼に供された。このことは、西域の音

楽を多く取り入れた北朝系の音楽が南朝系の伝統的な中華の音楽と並立したことを意味する。「南北朝楽府の多角的研究」では楽府(音楽)という、隋王朝の国際性を最も端的に象徴する文化領域の解明にまで着手することができた。

2. 研究の目的

隋の七部伎は唐の貞観十六(642)年に十部伎へと発展する。この十部伎を記録するのが『旧唐書』音楽志である。そして後に十部伎のなかでも西域の音楽を主とする非中華系の胡楽が燕楽(宴楽・讌楽)として玄宗皇帝によって重要視されたため、雅楽や清楽(隋、七部伎の清商伎)よりも唐代音楽をいっそう強く特徴づける存在となった。本研究では『旧唐書』音楽志について現代日本語訳と詳細な注釈を作成し、唐代の胡楽=燕楽の実態の解明に取り組むことを試みた。

しかし『旧唐書』は胡楽の盛行に言及するものの、その音楽上の基盤「俗楽二十八調」についての記述はない。だが、この俗楽二十八調こそは胡楽と中国古来の音楽である俗楽とが融合した音楽理論であって、この楽理によって中国音楽は唐代において一つの頂点を迎える。この胡楽=燕楽は日本に伝来し「雅楽」の形成に大きく寄与することになる。これらについてはすでに日本・中国でも研究成果が公開されているが、本研究では『旧唐書』以外の音楽資料、例えば『教坊記』・『通典』・『楽府雜録』・『新唐書』礼楽志・『唐会要』・『楽府詩集』などによって「俗楽二十八調」の形成とその発展、およびに「胡楽・俗楽・燕楽」三者の関係性について改めて検討することを試みた。

文学との関わりでいえば「清楽(清商伎・清商曲)」が重要である。清楽は、南朝期長江中下流域の俗謡から生まれた清商曲や、魏の曹操・曹植らによって楽府詩が盛んに制作された清商三調を内包し、唐代には「明君」「白紵」「子夜」「吳聲四時歌」「烏夜啼」「襄陽」「春江花月夜」など、この清商曲と清商三調の両者を模擬した擬古楽府詩が大量に制作された。そのなかでも李白はこの分野において量的にも質的にも傑出した成果を挙げている。しかし、『旧唐書』音楽志はこの清楽が唐代に徐々に衰退の一途をたどっていたことを述べている。清楽の衰退と清楽系擬古楽府詩の流行の関係については、未だに不明な点が多く、本研究ではこの問題の解明を試みた。その際には「六朝

の楽府と楽府詩」で解明した、東晋における楽府断絶と南朝における宮廷音楽の復興・楽府文学の再興の問題が大きな示唆を与えてくれた。

3. 研究の方法

「南北朝楽府の多角的研究」の遂行において最も重要であったのが林謙三[著]、郭沫若[訳]『隋唐燕楽調研究』である。同書は1936年、上海の商務印書館から出版された中国語版である。同書は唐代の音律「(雅楽の)正律」「俗律」「清商律」のうち「俗律」が亀茲(キジル)楽の音律から生まれたことを出発点にして唐玄宗皇帝期までの音楽、特に「俗楽」=「燕楽」の実態について詳細な考察を加える内容であるが、林謙三自身による日本語版は存在しない。「南北朝楽府の多角的研究」の参加者は必要に応じて同書を日本語訳しつつ『隋書』音楽志の訳注稿を作成したが、日本語で書かれた著作であるにもかかわらず日本語版のないことを惜しみ無しとはしなかった。専門性が極めて高く、しかもこの研究領域では先駆的で独創的な研究であるために、内容・文辞の両面で難解な中国語訳でどれほど原著者の意図が尽くされているか、不明であったからである。

折しも林謙三のご子息、長屋紘氏のご厚意により林謙三旧蔵書・旧稿を調査する機会に恵まれ、2010年12月と11年3月の二回かけて奈良の林謙三旧邸を訪問した。二回にわたる調査の結果、大部の未発表原稿を発見し、そのなかには「唐楽調の淵源」と題する原稿があった。表紙に「『東亜楽器考』附録 富山房」とあり、「唐楽調の淵源」は1942年富山房より出版を計画するものの実現せぬまま終戦を迎え出版計画は途絶した『東亜楽器考』の附録として収められるはずであった論文であることがわかった。『東亜楽器考』は1973年『東アジア楽器考』として出版されたがその際「唐楽調の淵源」は収められていない。同論文の内容を閲するに『隋唐燕楽調研究』と重なるところが多く、このことから中国語版『隋唐燕楽調研究』の出版後、林謙三みずから同書の日本語版を執筆していたことがわかる。前述したように同書は先駆的な研究であり、発表後の補訂や修正が必要な箇所もあつたはずである。未発表の「唐楽調の淵源」では『隋唐燕楽調研究』の補訂・修正が行われている。ただし、分量的に『隋唐燕楽調研究』の全部に対応しているわけではなく、カバーできない部分は中国語版を日本語訳し、それと「唐楽調の淵源」の解説・翻刻作業によって『隋唐燕楽調研究』の全貌を新しくよみがえらせることが可能であると考えた。

林謙三旧蔵書・旧稿には、さらに東洋音楽研究に関連する貴重図書、および歴史的な正倉院調査の貴重資料が多く含まれている。本研究では『旧唐書』音楽志を最重要文献として位置づけ訳注稿の作成に取り組むとともに、「林謙三未発表原稿を中心とした隋唐音楽研究の再構築と関連資料のアーカイブ化」というテーマも加えて、隋唐楽府文学の総合的研究を遂行した。

4. 研究成果

『旧唐書』音楽志について現代日本語訳と詳細な注釈を作成し、唐代の胡楽=燕楽の実態の解明に取り組む」という研究目的については、研究代表者・分担者十人全員が、年三回三年連続の研究例会に参加し、『旧唐書』音楽志訳注稿の作成に取り組み、その成果を学術雑誌に連載した。『旧唐書』音楽志の解読によって「雅楽/燕楽」の関係について歴史的な位置づけを行うことができた。

また、林謙三『隋唐燕楽調研究』日本語版刊行の準備も、この三年で整い、2016年春に刊行することとなった。

三年目には海外研究協力者を関西大学アジア文化研究センターに招聘し、国際シンポジウムを開催して研究結果の統括を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計45件)

1. 長谷部剛、ドイツ語のなかの杜甫 堀辰雄の「杜甫訳詩」とのかかわりを中心に、関西大学東西学術研究所[発行]『関西大学東西学術研究所紀要』2015、Vol.48、pp.109-126、査読有

2. 長谷部剛、泊園書院の漢詩 —藤澤東暎・南岳を中心に、藪田貫・陶徳民[編著]『泊園書院と大正蘭亭会百周年』(関西大学出版局) 2015、pp.31-52、査読無

3. 林香奈・川合安、『旧唐書』音楽志訳注稿(二)、関西大学中国文学会紀要、2015、Vol.36、pp.29-70、査読無

4. 狩野雄、芳りと響き 二陸の詩歌作品に見られる感覚表現、東方學、2015、Vol.129、pp.49-68、査読有

5. 釜谷武志、先秦至六朝時期的罪与罰、復旦學報(社会科学版)、2015、Vol.2015-1pp.89-97、査読有
6. 大形徹、龍角考 その一、麒麟の角、人文学論集(大阪府立大学人文学会) 2015、vol.33、pp.13~44、査読無
7. 大形徹、『列仙伝』にみえる道德的仙人の萌芽、2015、人文学論集(大阪府立大学人文学会) vol.33、pp.29-49、査読無
8. 山寺三知、校点『筆記律呂新書説』(附訓読)(三)『國學院大學北海道短期大学部紀要』、2015、Vol.32、pp.1-31、査読無
9. 佐藤大志、唐代の折楊柳—「折楊寄遠」から「折楊贈別」へ—、国語教育研究、2015、vol.56、pp.244-258、査読有
10. 長谷部剛、内藤湖南の唐代文獻研究簡介、中国唐代文学学会[発行]『唐代文学研究』、2014、Vol.15pp.744-745、査読有
11. 長谷部剛、圍繞林謙三《隋唐燕楽調研究》、中国楽府学会[発行]『楽府学』、2014、Vol.9、pp.29-38、査読有
12. 長谷部剛、英語のなかの杜甫、関西大学東西学術研究所[発行]『関西大学東西学術研究所紀要』、2014、Vol.47、pp.167-181、査読無
13. 長谷部剛、簡論唐鈔本杜甫集在日本的流傳情況、東吳大学中国文学系[発行]『第三届中国古典文献学國際學術研討會論文集』、2014、pp.3-10、査読有
14. 長谷部剛、杜甫と科挙 開元年間進士科落第説の検討、関西大学文学会[発行]『関西大学文学論集』、2014、Vol.64 No.2、pp.65-80、査読無
15. 佐藤大志、都市の荒廃を描く文学—鮑照「蕪城賦」をめぐる—、中国中世文学研究、2014、Vol.63,64、pp.20-35、査読無
16. 佐竹保子、『詩経』から謝靈運詩までの頂真格の修辭 押韻句を跨ぐもの、東北大学中国語学文学論集、2014、Vol.19、pp.1-24、査読無
17. 山寺三知、校点『筆記律呂新書説』(附訓読)(二)『國學院大學北海道短期大学部紀要』、2014、Vol.32、pp.1-31、査読無
18. 柳川順子、漢代画像石と語り物文芸、中国文学論集、Vol.43、2014、pp.11-20、査読有
19. 長谷部剛・狩野雄、『旧唐書』音楽志訳注稿(一) 関西大学中国文学会紀要、2014、Vol.35、pp.1-39、査読無
20. 大形徹・山田崇仁・陳建明・横大路綾子、漢字」という熟語について(續)、漢字学研究(立命館大学白川静文字文化研究所)、2014、Vol.2号、pp.1-18、査読有
21. 大形徹、戦国楚帛画の舟にみる復活再生觀念の考察、人文学論集(大阪府立大学人文学会) 2014、Vol.32、pp.23-43、査読無
22. 山寺三知・佐藤大志・長谷部剛、『隋書』音楽志訳注稿(六) 中国学研究論集、2013、vol.30、pp.1-37、査読無
23. 長谷部剛、宋代における杜甫詩集の集成と流伝(一) 関西大学文学会[発行]『関西大学文学論集』、2013、Vol.63 No.2、pp.33-51、査読無
24. 畑村学・橘英範・佐藤大志、張籍詩訳注(2) 宇部工業高等専門学校研究報告、2013、Vol.60、pp.1-65、査読無
25. 山寺三知、校点『筆記律呂新書説』(附訓読)(一)『國學院大學北海道短期大学部紀要』、2013、Vol.30、pp.37-59、査読無
26. 大形徹(楊冰訳)《論語》的政治理念及其實現方法、國際儒学論壇 2013 儒家思想与理想之治論文集(下)(中国人民大学) 2013、pp.108-116、査読有
27. 王財源・大形徹、鍼灸美容にみえる《美》意識についての考察 中国哲学を基盤とした《美》、全日本鍼灸学会雑誌、2013、Vol.63、No.2、pp.123-131、査読有
28. 大形徹(楊冰訳)《論語》的政治理念及其實現方法、國際儒学論壇 2013 儒家思想与理想之治論文集(下)(中国人民大学) 2013、pp.108-116、査読有
29. 佐竹保子、謝靈運「遊南亭」詩における「賞心」「惟良知」解釈とのかかわりにおいて、『集刊東洋学』、2013、Vol.109

pp.23-41、査読有

30.畑村学・橘英範・佐藤大志、張籍詩訳注(21)「塞上曲」「董逃行」「江村行」、宇部工業高等専門学校研究報告、2013、Vol.59、p.9-55、査読無

31.武井満幹・佐藤大志、支遁詩訳注稿(六)、東洋古典学研究、2013、vol.35、2013、p.1-34、査読無

32.長谷部剛、唐代における杜甫詩集の集成と流伝(三)、関西大学文学会[発行]『関西大学文学論集』、2012、Vol.61 No.3、pp.49-84、査読無

33.長谷部剛、王昌齡「一片冰心在玉壺」誕生の背景、関西大学中国文学会[発行]『関西大学中国文学会紀要』、2012、Vol.33、pp.1~17、査読無

34.長谷部剛、初盛唐至中唐間“古楽府”概念衍変芻論、中国唐代文学学会[発行]『唐代文学研究』、2012、Vol.14、pp.124-135、査読有

35.川合安、南朝史からみた隋唐帝国の形成、唐代史研究、2012、Vol.15、pp.3-21、査読無

36.柳川順子、白居易の「序洛詩」と『文集』六十巻 編み直された隠棲意識とその背景、中国文史論叢、2012、Vol.8、pp.89-100、査読無

37.柳川順子、曹植「贈丁儀」詩小考、林田慎之助先生傘寿記念三国志論集(汲古書院)、2012年、pp.195-214、査読無

38.狩野雄、匂い立つのか、響くのか 周瑜の「美」をめぐる、林田慎之助博士傘寿記念三国志論集(汲古書院)2012、pp.59-90頁、査読無

39.佐竹保子、謝靈運詩文中の「賞」と「情」以「情用賞為美」句的解釈為線索、迴向自然的詩学(國立臺灣大學出版中心)2012、pp.167-195、査読有

40.佐竹保子、『世説新語』劉孝標注訳注稿(三)、東北大学中国語学文学論集、2012、Vol.17、pp.1-74、査読無

41.釜谷武志、杜甫の中の陶淵明、中国文学報、2012、Vol.83、pp.160-174、査読有

42.大形徹、華山と洞天 大上方を中心として、

洞天福地研究、2012、Vol.2、pp.10-30、査読無

43.大形徹、増補仙穴考、洞天福地研究、2012、Vol.3、pp.66-82、査読無

44.大形徹、陳建明、横大路綾子、「漢字」という熟語は、いつ作られたのか 日本の『發心和歌集』が文献上、最古の使用例ではないか、漢字学研究(立命館大学白川静文字学研究所)2012、Vol.1号、pp.1-23、査読有

45.大形徹、鹿の角がもつ再生観念について スキタイ、戦国楚墓、馬王堆漢墓をつなぐもの、人文学論集(大阪府立大学人文学会)2012、Vol.31、pp.59-89、査読無

〔学会発表〕(計12件)

1.佐竹保子、謝靈運詩中的人與物 以詩語「賞」為線索、以物觀物(台湾・東亜與世界的互文脈絡)國際學術研討會、2014年10月17日、国立中山大学(台湾・高雄)

2.川合安、南朝の士庶區別、魏晉南北朝史新探索國際學術研討會・中国魏晉南北朝史学会第十一屆年會、2014年10月13日、中国社会科学院(中国・北京)

3.長谷部剛、日本詩歌集錦《和漢朗詠集》と初唐詩流伝情况、中国唐代文学学会第十七屆年會及唐代文学國際學術討論會、2014年10月12日 蘇州大学(中国・蘇州市)

4.川合安、『貞觀氏族志』における皇族の等級、2014年度東北史学会大会、2014年10月4日 福島大学(日本・福島)

5.佐竹保子、1981年前学期袁行霽教授講《中国詩歌芸術研究》課、國際漢学研究之回顧與前瞻研討會、2014年09月2日、北京大学(中国・北京)

6.長谷部剛、芥川龍之介・堀辰雄與中国古典文学、「今古齊觀：中國文學的古典與現代」國際學術研討會 2014年5月28日、香港中文大學中國語言及文學系(中国・香港)

7.長谷部剛、近代日本琴道與林謙三、高羅佩、国立台湾大学音樂学研究所の招待講演、2014年4月25日、国立台湾大学音樂学研究所(台湾・台北市)

8.長谷部剛、簡論唐鈔本杜甫集在日本的流傳情况、第二届中国古典文献学國際學術研討會、

2014年4月25日、東吳大学中国文学系(台湾・台北市)

9.長谷部剛、郭沫若[訳]『日本短編小説集』について、関西大学東西学術研究所日本文学研究班研究例会 2014年2月21日、関西大学東西学術研究所(大阪・吹田市)

10.長谷部剛、関西大学図書館蔵『白氏文集残巻』について、和漢比較文学会第六回特別例会、2013年8月31日、西北大学(中国・西安市)

11.長谷部剛、圍繞林謙三《隋唐燕楽調研究》四届楽府歌詩国際学術研討会、2013年8月25日首都師範大学(中国・北京市)

12.長谷部剛、内藤湖南の唐代文献研究簡介、中国唐代文学学会第16回年会及“唐代西域及文学”国際学術研討会、2012年8月20日、新疆師範大学(中国・ウルムチ市)

[図書](計6件)

1.大形徹、東方書店、胎産書・雑禁方・天下至道談・合陰陽方・十問、2015、424

2.川合安、汲古書院、南朝貴族制研究、2015、360

3.林香奈ほか関西中国女性史研究会、人文書院、増補改訂版中国女性史入門 女たちの今と昔、2014、総227(担当 pp.9-60、22-23、34-35、62-63頁、計84)

4.岡村繁・二宮俊博・諸田龍美・柳川順子、明治書院、白氏文集十(新釈漢文大系106)、2014

5.柳川順子、創文社、漢代五言詩歌史の研究、2013、534頁

6.釜谷武志、岩波書店、陶淵明 距離 の発見、2012、211

6. 研究組織

(1)研究代表者

長谷部 剛 (HASEBE, Tsuyoshi)
関西大学・文学部・教授
研究者番号: 50308152

(2)研究分担者

山寺 三知 (YAMADERA, Mistutoshi)
國學院大學北海道短期大学部・国文学科・教授
研究者番号: 70352507
佐竹 保子 (SATAKE, Yasuko)

東北大学・文学研究科・教授
研究者番号: 20170714

川合 安 (KAWAI, Yasusi)
東北大学・文学研究科・教授
研究者番号: 30195036

釜谷 武志 (Kamatani, Takeshi)
神戸大学・人文学研究科・教授
研究者番号: 30152838

狩野 雄 (Kano, Yu)
相模女子大学・学芸学部・教授
研究者番号: 80333764

林 香奈 (HAYASHI, Kana)
京都府立大学・文学部・准教授
研究者番号: 30272933

大形 徹 (Ohgata, Toru)
大阪府立大学・人間社会学部・教授
研究者番号: 60152063

柳川 順子 (YANAGAWA, Junko)
県立広島大学・人間文化学部・教授
研究者番号: 60210291

佐藤 大志 (SATO, Takeshi)
広島大学・教育学研究科(研究院)・准教授
研究者番号: 90309625

(3)連携研究者

()

研究者番号: